

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

572-323

事務事業名	公共下水道污水管渠整備事業(飯田処理区)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	水道環境部	課等名	下水道課		包含する細々目	12	2	1	2	10	99	1,066,000
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり											
施策	45 居住基盤の向上											
実施区分	継続	会計	下水道	環境調整会議	済み	75小加理		天竜川流域別下水道整備総合計画、雨水計画、飯田市下水道整備基本計画、下水道法、都市計画法、水質汚濁防止法、下水道条例				
		事業期間	6	年度～	25	年度	関連計画条例等					

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	・公共飯田処理区域内の市民及び事業所を対象とします。	飯田処理区内の下水道普及人口(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			69527	77600		
	・市民及び事業所が処理施設に接続し、排水処理を行える状態にします。	飯田処理区内の汚水処理人口(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		最終目標達成年度
			63741	77600		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
・市民及び事業所が処理施設に接続し、排水処理を行える状態にします。	普及率(%)	18目標	88	最終目標	100	25
		18実績	88.2	19目標	89.6	↑
	23目標	97	23実績			最終目標達成年度
	飯田処理区水洗化率(%)	18目標	92	最終目標	100	28
18実績		91.4	19目標	91.7	↑	
23目標		97	23実績			最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	飯田都市計画区域の市街地を中心とする区域において、下水道施設整備を行うのが公共下水道(飯田処理区)事業です。 排水区域となっているのは飯田、上郷、伊賀良、鼎、松尾、座光寺および竜丘駄科の一部です。 ・計画処理区域 2,617ヘクタール ・計画処理人口 77,600人 ・計画管渠延長 486,754m	18年度の実績 ・改訂第4次下水道基本計画に基づき、伊賀良、上郷、駄科地区を重点に下水道管布設L=10,221m整備の他、関連工事、引込管工事の設計、施工を行いました。 ・工事説明会において水洗化促進の説明を行いました。	整備済面積率 整備済面積 / 認可面積	81.9
19年度計画	・改訂第4次基本計画に基づき下水道管布設L=10,066m他、関連工事、引込管工事を行う予定です。 ・工事説明会において水洗化促進を図ります。	整備済面積率 整備済面積 / 認可面積	83.3	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源	46,000	70,000
	国庫支出金	0	0
	県支出金	893,100	908,500
	起債	114,345	79,739
	その他	-48,572	7,761
	一般財源	1,004,873	1,066,000
事業費計(A)	1,004,873	1,066,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 12,180	19年度 11,900
	臨時職員等所要時間	1,900	1,890
	人件費計(B)	45,598	44,586
	トータルコストA+B	1,050,471	1,110,586

特定財源内訳や補足事項
公共下水道(国補1/2)、下水道事業債(補助残90%、非補助95%)、汚水処理施設整備交付金(国1/2) 受益者負担金制度等(5%)

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民、市内滞在者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。	水洗化率[全水洗化人口 / 全計画人口] (4手法全体)	現状値	78.8	19実績	81.5
			20実績		21実績	
	松川(最下流)の水質(BOD値)mg/l		22実績		23目標	
			現状値	1	19実績	1
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
<ul style="list-style-type: none"> 昭和22年の大火復興都市計画事業により下水道計画が策定されました。 平成7年3月「飯田市下水道整備基本計画」を策定し、市民皆水洗化を目指すことになり、その後の見直しを経て平成25年迄に施設整備を完了する計画です。 生活環境を向上させ、快適に暮らすための重要な事業として取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画区域境界における区域外の開発が進み、下水道への接続相談が増え、対応に苦慮しています。 農振・農用地への公共樹取り出しはしていません。 起債充当率の有利な緊急下水道整備特定事業が平成14年度で終了しました。 H14年度から交付税算入率が低下しました。(50%45% = 5%) 計画区域の内一部(三中地区)が補助事業から交付金事業へ変更となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民・議会共に早期の整備要望が強くあります。 計画区域外において、区域の拡大を望む声があります。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	<p>平成17年度から公共(特環)、農集、合併浄化槽、の三手法による汚水処理施設整備交付金制度が創設され、三中地区の整備を促進するためにこの制度に移行しました。</p>
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	三中地区地域再生計画の見直し国費事業費の減額変更を行います。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がある	(2) 必要性な場合の実施事由	2- 施設などを新設、改造、廃止するとき
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	公共工事における環境配慮設計、ISO公共工事環境配慮シ-トによる竣工時配慮率の目標値を80パーセントとして取り組みました。		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	